平成 28 年度

No. 4-6

第５次結城市総合計画実施計画策定及び行政評価シート

担当部署		
部局名	教育委員会	
課名	学校教育課	
係名	学務係	
記入者		電話(内線) 624

1．事業の概要

(1) 事業種別［新規又は継続］	継続	(2) 事務事業の名称	教育振興事業（小学校）	(3) 事業の優先度	A

(4) 総合計画での位置づけ		(6) 事業主体	市
① 事業の区分	事務事業	(7) 予算・財源等の種別 事業の性質	一般事業費(ソフト事業)
② 施策コード	41199 （総合計画掲載ﾍﾟｰｼﾞ ﾍﾟｰｼﾞ）	会計区分	一般会計
基本目標(政策)	4未来を担う子どもと地域を支える市民を育むまちづくり(教育・文化)	財源区分	国県補助
基本施策	4-1生きる力を育む教育環境づくり（学校教育）	予算科目	款 10 項 2 目 2
施策	①教育内容の充実	予算書上の事業名称	教育振興事業費（予算書 161 ﾍﾟｰｼﾞに掲載）
施策内容	その他		
(5) 事業期間	開始 年 月から 終了 年 月まで（ カ年）	(8) 事務分類	自治事務
		根拠法令	

2．事業の目的及び内容

(1) 対象（だれに対して・何に対して行うのか）

児童生徒及び教職員

(2) 手段（事業内容・どのようなことを行うのか）

・理科教科の充実のため理科支援員を配置
（国庫補助：補助率1/3）
＊3小学校ごとに実施しているものを通年実施に拡充
・算数教科の習熟度向上を図るため夏季休業中に学びの広場を実施(県委託金)
・読書活動推進のための図書整備
・学校図書巡回文庫事業（H27新規事業100万円,H28増額300万円）
・PC教室の運用

(3) めざす姿（意図・どのような状態になるのか）

確かな学力の育成・豊かな心の育成・健康と体力の向上を目指し，児童生徒の「生きる力」を育み，将来の社会活動における一翼を担う人材の育成をする。

(4) 事業開始のきっかけや他市の状況など
（※ 1-(8)事務分類が法定受託の場合は記入の必要なし）

(5) 事業をとりまく環境の変化（社会環境，市民ニーズ等）や市民・議会の要望，意見等とそれに対する対応

理数教科の学力低下が問題視され，世界で活躍できる人材育成と技術力の維持のため国において積極的な推進策が図られたことから本市としても対応が必要であり，理数教科については児童生徒の習熟度に差が出やすいことから，補習・アシスタント学習事業を実施する。
また，児童の読書意欲向上のため，学校図書巡回文庫事業を今後さらに充実を図る。

3．事業コスト

行政評価 実績内容の評価 → 検討・改善 → 検討・改善内容を反映
実施計画

● 予算内訳		実績額（千円）	当初予算額（千円）	計画額・見込額（千円）		
	事業内容	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度
(1)事務事業費のコスト 事業費	報償費	1,426	1,567			
	需用費	20,647	4,259			
	役務費	36	37			
	使用料及び賃借料	19,806	11,246			
	備品購入費	4,987	6,635			
	負担金補助及び交付金	1	1			
	合計	46,903	23,745			
財源	国庫支出金 (千円)	101	101			
	県支出金 (千円)	453	483			
	地方債 (千円)					
	その他特定財源 (千円)					
	一般財源 (千円)	46,349	23,161			
	合計 (千円)	46,903	23,745			
	補助・起債制度名	理科実験等準備支援事業補助金，学びの広場ｻﾎﾟｰﾄﾌﾟﾗﾝ委託金	理科実験等準備支援事業補助金，学びの広場ｻﾎﾟｰﾄﾌﾟﾗﾝ委託金			

4. 指標の検証（活動指標・成果指標）

指標の名称			単位	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度
(1) 活動指標（実施した事業の内容）								
指標名		目標値						
		実績(見込)値						
指標名		目標値						
		実績(見込)値						
(2) 成果指標（事業実施によるめざす姿の達成度）								
指標名		目標値						
		実績(見込)値						
		達成率		%	%			
指標名		目標値						
		実績(見込)値						
		達成率		%	%			

5. 事業評価

(1)平成27年度の行政評価結果をうけて，平成27年度に取り組んだ改革改善点があれば記載してください。

国・県の補助金制度を活用して理数系授業の充実を図っている。

(2) 項目別評価

評価項目・客観的評価				理由
必要性	事業の必要性	A	必要性は高い	
妥当性	実施主体の妥当性	A	妥当である	
	手段の妥当性	A	妥当である	
効率性	コスト効率 人員効率	B	どちらとも言えない	
公平性	受益者の偏り	A	偏りは見られない	
有効性	成果の向上	B	どちらとも言えない	
進捗度	事業の進捗	A	順調である	

(3)総合評価　上記評価を踏まえて事業全体について評価し，問題点・課題等を指摘してください。

理科教科；理科支援員・算数：学びの広場を実施し一定の成果を得ている。
読書活動については，国の読書環境整備5カ年計画による地方財政措置に基づく整備費用を学校に配当し，図書整備に活用されている。

(4)対応策・提言等　この事業を今後どのように改善･改革をしていきますか？

今後も補助金制度を積極的に活用し，授業の活性化・工夫を図れる環境を整備する。学校図書巡回文庫事業については，図書購入を増やすことで読書活動の推進を図る。また，ゆうき図書館の団体貸出や読書通帳と連携し，よりよい児童への読書環境づくりを行っていきたい。

6. 事業の方向性判断

評価主体	28年度以降の事業の方向性	評価理由・根拠
(1)記入者評価 記入者が評価を行う	**改善・改革しながら継続**（成果向上・ｺｽﾄ維持又はｺｽﾄ削減，成果維持・ｺｽﾄ維持又はｺｽﾄ削減）	注）記入者は「5. 事業評価」を記載するため，この欄は未記入で結構です。
(2)一次評価 担当課長が評価を行う	**改善・改革しながら継続**（成果向上・ｺｽﾄ維持又はｺｽﾄ削減，成果維持・ｺｽﾄ維持又はｺｽﾄ削減）	ICT環境も検討する。
(3)最終評価 企画調整会議において評価を行う		上記評価のとおり。